

# なるほど経済指標

## 経常収支

検索

発表機関:財務省、日本銀行(毎月中旬頃発表)

経済活動のグローバル化が進展する中で、企業の貿易取引や海外進出、個人の海外旅行などが活発化しています。そこで、今回はわが国における海外との取引状況を捉える際に代表的な指標となる「経常収支」について解説してみます。

### 1. 経常収支とは

経常収支は国際収支統計の中の一部で、海外とのモノやサービスの取引の収支(受取と支払の差額)を示しています。収支がプラスとなることを経常黒字、マイナスとなることを経常赤字と呼んでいます。この経常収支の動きは為替の需給にも影響を与えることから注目されています。

経常収支は貿易収支、サービス収支、所得収支、経常移転収支の4つから構成されます。貿易収支は自動車や家電などの輸出や原油や鉄鉱石などの輸入など、いわゆるモノ(財貨)の輸出入の収支を示します。サービス収支は、主に輸送や旅行などの収支を示します。所得収支は海外での雇用者報酬や海外投資による利子・配当金収入などです。経常移転収支は食料や医薬品など消費財にかかわる政府間の無償援助などです。

### 2. 経常収支のこれまでの動き

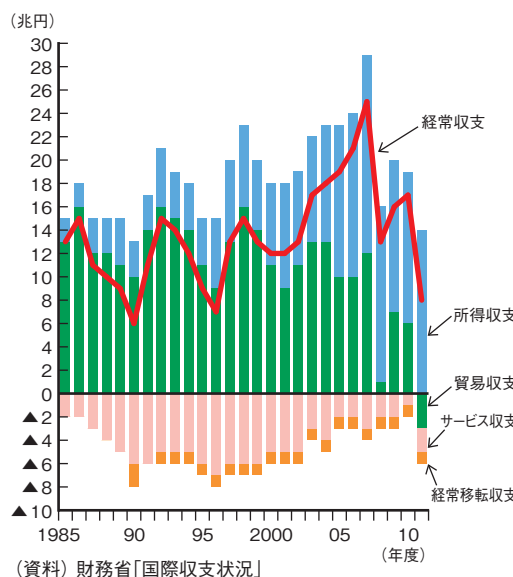
経常収支の推移をみると(図表)、わが国と海外との取引構造がどのように変化してきたかが分かります。1970年代以降80年代にかけては、わが国の輸出競争力が高まったことを受けて、貿易収支の黒字を主因とした経常黒字が続いていました。

一方、1990年代以降は円高やグローバル化の進行を背景に企業の海外進出が増加したことから所得収支の黒字幅が拡大する一方で、貿易収支は黒字幅が縮小しました。

また、サービス収支はわが国への入国者に

比べて出国者が圧倒的に多い状況を反映して収支のマイナスが定着していましたが、最近ではマイナス幅が縮小傾向にあります。

図表 経常収支の推移



### 3. 最近の動きと今後の見通し

近年は企業の海外進出加速を背景に経常収支の黒字の大部分を所得収支が占めるようになってきました。さらに、円高を背景とした輸出低迷や震災以降のエネルギー転換によりLNG等の燃料輸入が拡大するなか2011年には貿易収支が赤字に転じています。

2012年度上半期の経常収支も前年同期比41.3%減の2.7兆円と比較可能な1985年以降で過去最少を記録しています。このように経常収支の構造がこれまでと大きく変化することで、為替の需給動向に対しても影響を与える可能性が出てきそうです。

別府 孝文